

「人文地理」投稿規程 (2015年1月24日改訂)

1. 原則

- ・投稿を受け付ける原稿は、人文地理学およびそれと密接に関連する分野の未発表の学術論文としての、論説、展望、研究ノート、および同分野の書評とする。ただし、大会、部会、諸学会、諸研究会等において、口頭により発表されたものは、未発表のものとする。
- ・投稿者は本学会会員とする。ただし、編集専門委員会（以下編集委員会）がとくに依頼する場合にはこの限りではない。共著の場合は、少なくとも1名が会員であることが必要である。
- ・学界展望、書評を除き、同一著者の論文が1年以内に2編以上掲載されないことを原則とする。
- ・掲載決定論文等の著作権は本学会に帰属する。詳しくは本学会 web に掲載の「著作権について」を参照のこと。
- ・なお、投稿論文の執筆に際しては他人の著作権を侵害したり、名誉毀損の問題が生じたりしないように十分に注意すること。万一、本誌に掲載された論文が他者の著作権等を侵害した場合、執筆者がその一切の責任を負うものとする。

2. 投稿原稿の種別

論説：実証的または理論的研究の成果として、高度のオリジナリティと完成度を有するもの。

展望：地理学及び関連諸分野における研究動向、議論や問題点を紹介し、著者による論評や将来の展望を加えたもの。

研究ノート：論説に準じる完成度をもち、掲載に値する知見や結果を有するもの、社会的発信力のあるもの、一地域の調査報告、予察的・中間的な研究報告、『人文地理』掲載論文に対する批判・議論などの紹介。

書評：地理学および関連する分野の国内外の新刊書（投稿時点でおおむね刊行から2年以内）の紹介。

なお、「学界展望」・「フォーカス」・「フォーラム」については、編集委員会からの依頼を原則としている。

3. 原稿の構成と長さ

- ・日本語原稿は、横書きとし、表題・著者名・目次・キーワード・本文・注・英語要旨（表題、著者名、所属、キーワードを含む）・英語要旨のもとになった日本語要旨・図・表から構成する。要旨については、他の外国語でも可とするが、その場合にも英語要旨は併記すること。英語原稿については、英文投稿規程を参照のこと。
- ・書評の構成は、対象書物・論文の書誌事項（著者名、書名・論文名（掲載雑誌、年、ページ）の日本語訳を含む）・本文・書評者氏名とする。なお、書評では注を設けないこと。
- ・長さは、図表・英語要旨等を含めた刷り上がり頁数で、「論説」と「展望」は20頁、「研究ノート」は16頁を上限頁とする。「書評」は2頁完結とする（24字×42行×2段=2016字、うち1頁目左段の3行分を「書評」の種別表記に充当するので、1頁目の本文は1944字）。これらの長さを超えるものでも、「書評」以外は編集委員会が必要と認めた場合は、掲載することがある。ただし上限頁を超えた場合には、下記経費負担の項目に従った超過料金を請求する。

4. 投稿手続き

投稿者は、原稿一揃（図表・要旨等・送付状を含む）のオリジナル1部、コピー2部（書評のみオリジナルとコピー各1部）を、本学会編集委員会宛送付する。掲載された論文の原稿は、前もって要望がある場合に限り返却する。

5. 原稿の採否

編集委員会が選んだ複数の査読者によって閲読され、その意見にもとづき編集委員会で掲載の可否を決定する。その決定に従い編集委員会は、加筆・修正を著者に依頼する。また、受理した原稿の細部については、編集委員会が適宜加筆修正することがある。なお、刷り上がり総頁が上限頁数を大幅に超え、「論説」・「展望」は26頁以上、「研究ノート」は21頁以上になると判断される場合には、審査対象外（後記「査読原稿の評価の基準」におけるD評価）として返却する。また、査読結果の連絡から1年を超えて再投稿された原稿は、新規原稿として取り扱うものとする。

6. 経費負担

投稿料は徴収しない。ただし、刷り上り頁数が上限頁数を超えた場合には、1頁につき5千円の超過料金を請求する。また、図版の作成し直しや特殊な印刷を必要とする場合、著者に実費を請求する。

7. 校正

「論説」・「展望」・「研究ノート」・「フォーラム」・「フォーカス」・「書評」の初校のみ著者校正とし、その後の校正は編集委員会で行う。著者校正は誤植の訂正に限る。

8. 抜刷

論説・展望（学界展望を除く）・研究ノートについて、希望により作成する。部数は50部を単位とし、代金は50部：4,500円、100部：7,000円、100部以上は50部増すごとに2,500円を追加する。ただし300部を限度とする。

「人文地理」執筆要領（2015年1月24日改訂）

1. 原稿の作成

表題、目次、本文、注、英語要旨、それに対応する日本語要旨、表は原則として電子媒体で作成し、A4の用紙に印刷する。用紙には各25mmから30mm程度のマージンをとり、1200字から1600字、10～12ポイント活字で印刷し、通し頁番号を頁中央下にふる。原則として数字やハイフンは半角で印刷する。書評については、投稿規程の3欄に従って刷り上がりイメージで印字する。400字詰め原稿用紙に換算した枚数を、送付状の所定欄に明記する。論文受理後に編集委員会から、CD、DVDの送付を依頼する（投稿時には不要）。

2. 目次・本文

章・節の見出しは、それぞれI、(1)のように付けることを原則とし、項以下の見出しがある場合には、a、b、cを用いる。

常用漢字・新字体・新仮名づかいを用いることを原則とする。固有名詞・引用文等やむをえない場合に限り、この原則によらなくてもよい。

人名・地名の表記は原則として外国語綴りは避け、片仮名書きとする。但し国内に定着していない人名・地名は、初出の場合のみ原則として外国語綴りのフルネームを括弧内に併記する。[例：トゥアン (Tuan, Yi-Fu)、イズミット (Izmit)]

年号表記は西暦を原則とする。ただし西暦（和暦）年、和暦（西暦）年表記も可とする。

本文の著者名および英語要旨の著者名には勤務先・所属先（日本語・英語）を付記する。大学の場合は学部あるいは大学院研究科名まで記し、大学院生の場合には「(○○大学・○○研究科・院生)」, 英語では「Graduate student, ○○」とする。

英語要旨については原則としてアメリカ英語とし、最終的な基準はランダムハウスの辞書の表記に従う。

3. 注

本文中、当該箇所の右肩に¹⁾、²⁾のように付ける。文末注方式を採用している。

注原稿は、番号ごとに改行する。一つの注の中では、複数の文献を列挙する場合でも改行しないことを原則とし、(1)(2)…の番号をつけて並べる。①、②などの丸囲み数字は使用しないこと。

同一文献を再度引用する場合は、新しい注番号を付け、「前掲1) 128頁。」のように記す。

リプリント版、ペーパーバック版あるいは第2版以後のものを用いた場合、初版刊行本を「……, 2014 (初版2001)」のように併記する。

そのほか、注における文献の記載方法は、以下の例による。

• 日本語雑誌論文の場合

成田孝三「世界都市におけるエスニックマイノリティへの視点—東京・大阪の「在日」をめぐる—」*経済地理学年報*41-4, 1995, 308-329頁。

• 日本語単行本の場合

千田稔『地名の巨人 吉田東伍—大日本地名辞書の誕生—』角川書店, 2013。

• 日本語編書の一部の場合

山野正彦・山田誠・野間晴雄「人文地理学」(人文地理学会編『人文地理学事典』丸善出版, 2013) 2-5頁。 * 編著中の論文や項目などをすべて示す場合。

山元貴継「韓国農村集落の空間構造とその変化」(神谷浩夫・轟博志編『現代韓国の地理学』古今書院, 2010), 118頁。 * 編著中の論文の一部を引用する場合。

• 翻訳文献の場合

エドワード・レルフ(高野岳彦・阿部隆・石山美也子訳)『場所の現象学—没場所性を越えて—』筑摩書房, 1999。
シェーファー(野間三郎訳)「地理学における例外主義—その方法論的吟味—」(野間三郎『空間の理論—地理学のフロンティア—』古今書院, 1976), 4-27頁。 * 日本語文献の扱いに準じる。原著のタイトルは原則として不要である。

• 外国語雑誌論文の場合

Powell, J. M., 'Historical geography and environmental history: an Australian interface', *Journal of Historical Geography*, 22, 1996, pp. 253-273.

- 外国語単行本の場合
Smith, N., *Uneven development : nature, capital and the production of space*, Blackwell, 1990 (1984). *一部の
み示す時は、「pp. 207-226.」とする。
- 外国語編書の一部の場合
Massey, D., 'Politics of space/time' (Keith M., and S. Pile eds., *Place and the politics of identity*, Routledge,
1993), pp. 141-161.
- 外国語文献の日本語訳を併記する場合
Toal, G., 'Critical geopolitics' (Toal, G. ed., *Critical geopolitics : the politics of writing global space*, University
of Minnesota Press, 1996), pp. 152-174. [トール (成瀬厚訳)「批判地政学」現代思想27-13, 1999, 232-247頁]
外国語文献でイタリック表示をする場合は、下線を引くか、イタリック体で印刷する。
- ホームページを引用する場合
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/hgeog/index-j.html> 2011年3月11日閲覧。

4. 図・表

写真も図として扱う。第1図、第1表という表記を用い、第1図a、あるいは第1-a図などとはしない。図・表の挿入位置は本文の右欄外に指定する。

刷り上がりでは、幅6.5cm (1段幅) か14cm (2段幅) となるので、著者はそのどちらかの幅を各図表に指示すること。

図については、印刷段階で原図をスキャナーで取りこみ加工するので、1:輪郭だけ製図したもの(パソコンで作図のものも含む)を原図とするか、2:そのまま印刷できる完成図(絵図資料、写真、地形図など)を提出する、のどちらかの形式を選択すること。1, 2いずれの場合にも、凡例、濃淡や写植文字の指定は、原図には書き入れず、原図の「コピー」に指示する。ただしドローソフトで作成されたものは使用不可の場合もあるので、確認を取ること。凡例、濃淡や写植文字は印刷所にて処理する。ただし、原図をもとにした完成図を必ずつけること。

上記1, 2の図あるいはその製作に使用したCD, DVDも送付する。

図番号・表題は、各図の下に記す。表題の下に簡単な注釈や説明を付けることができる。

表番号と表題を各表の上に記す。表の典拠などは表の下に注記する。

日本語の表題とともに英語の表題を併記する。英語の表題は書き出しの文字だけを大文字とし、以下は(固有名詞などを除いて)小文字とする。英語による説明文や注などを併記してもよいが、なるべく最小限にとどめる。なお、図・表の本体でも英語表記が必要な場合には、日本語と英語との併記を避け、英語表記のみとする方が望ましい。

英語の図・表番号と表題は、一括して別記する。

カラー図版は原則として掲載できない。

図の転載を希望する場合は当該図の著者、発行者(学会・出版社等)から書面で許可を受け、そのコピーを送付すること。

5. 英語要旨

論説、展望には300~500語の英語要旨を付ける。研究ノートは250~400語とする。英語以外の外国語要旨もこれに準ずる。必ず英語要旨に対応する日本語要旨も付けること。編集委員会では簡単な校閲を行うが、執筆者はあらかじめ専門家による校閲を経ること。

6. キーワード

各論文に日本語のキーワードを5~6語程度つけ、それらの英語訳も同じ順序でつける。

キーワードは、その論文のテーマ、フィールド、目的、方法、結果などを過不足なく表現するものを選定する。表題に含まれる語も選定して差し支えない。ただし検索されることを考慮して一般性を備えたものとする。

並べ方は、一般性のあるものから個別的なものへと配列すること。

日本語キーワードは目次の次に、英語キーワードは英語要旨の末尾に記す。

7. 書評に必要な書誌事項

著者名、書名(副題がある場合は「— —」で挟んで記す。外国語のアルファベット系言語の場合、単語の改行時はシラブルに注意すること)、外国語書籍の場合は書名に続け()で挟んで評者による邦題を記す、出版社名、発行年、総頁数(○○p., ○○頁)、本体価格、ISBNを順に記す。また、文末に()で挟んで書評者氏名および所属を記す。以上の書誌事項は全て本文と同じフォント・文字数・行数でレイアウトする。なお、書評は必ず2頁完結とするため、編集委員会から文章の削除や加筆を求められることがある。